

福井大学学術交流協定校派遣留学（交換留学）月例報告書（1月）

派遣先大学：マラヤ大学
国際地域学部 3年 安江 詠星

こんにちは、マレーシアのマラヤ大学に留学中の安江です。留学もちょうど折り返し地点になり 5 回目の報告書となります。今月は年が明けるとすぐにテスト期間があり、その後一月の尾半ばから一ヶ月間のセメスター間の休みに入るというスケジュールでした。今月の報告書はマラヤ大学でのテスト期間の様子や 1 つ目のセメスターで受けた授業について振り返っていかうと思います。

まずマラヤ大学の年末年始のスケジュールは、12月の第3週にはほとんどの授業の講義が終わりその後年末までは休み、年明けの1月2日からテスト期間が始まる、というものです。テスト期間は3週間ほどあり、その中で各授業のテスト日が決められています。僕の場合は1月の5日、10日、14日にテストがありました。人によって終わるタイミングが違うので、早ければ早いほど長く休みになるということになります。（テスト日は履修登録の時にオンラインで確認できるので日時がかぶらないように履修します。）このテストは期末テストになり、ほぼ全ての授業であります。中間テストの有無は授業によって違います。僕が取っていた授業では中間テストは無かったのでこの期末テストが唯一の試験でした。日本の大学では期末テストは授業の最終週で行い、授業で使っていた教室を使うことが多く、また授業によってはレポートやプレゼンだけで成績評価をすることも多いと思います。しかしマラヤ大の授業では期末試験が成績評価の半分以上の割合を占め、しかも手書きの英語のものを受けなければなりません。また会場も examination hall という大きな部屋がある建物で全ての試験が行われます。広大なマラヤの敷地なので試験期間は寮からその会場への直通のバスが出ます。例によって歩いて行くとかなり遠い距離なので殆どの学生はそのバスに乗って行きます。寮だけでなく他の場所からも何台もバスは出てタクシーで来る人も多いので渋滞が発生し、また会場内は直前詰め込みの座り込みグループディスカッションに勤しむ生徒達で溢れるという日本の大学の試験とはかなり異なる雰囲気でした。どこか全国模試やセンター試験の雰囲気に近い印象です。先述の通りテストの形式は手書きの英語で記入していくもので、テスト時間は2~3時間です。持ち込み物や服装にも規定があるなど（長ズボン必須という程度ですが）日本での受験のような緊張感の中でテストが行われました。テスト内容は主に暗記系の習ったことを説明するものが多く、自分が国際地域学部での授業でやってきたような「説明を軽くした上で自分の意見を述べる課題や試験」とは違い、ボールペンで手書き、しかもほぼ丸暗記すればするほど点数が高くなる形式は正直苦しかったです。授業範囲も膨大なので過去問を参考に（データベースで過去1-2回分が読めます）所謂「ヤマ」を張ったりしたのですが、思いっきり外れてしまったので試験中は絶望していました。なんとか単位は取れましたが、膨大な授業範囲を頭に効率よくインプット

すべくそれ相応の時間を掛けて対策しなければと猛省した1セメスター目の試験でした。

政治、中国文化、マイノリティ問題など1セメスター目で取った授業は全て東南アジアに関する授業でした。もともと余り深く考えず東南アジアについて学ぶ事に関心があって履修しましたが蓋を開けてみると歴史、文化、宗教、民族、国際関係など様々な要素が複雑に絡んでおり理解するのが困難なトピックもありました。先生だけでなく周りのローカル生徒や留学生も東南アジア出身の人が多く、知識量や理解度に差があるときもたびたびありました。これらの授業を終えてやっと東南アジアを学ぶための初歩的な、基礎の知識をつけることが出来たかなと思っています。授業中の課題もエッセイの文字数やトピックの難しさやプレゼンの回数や準備期間の短さなど自分にとっては初めてで上手く対処できない事も多々あり、やりすごすことの難しさと妥協の重要さを痛感しました。しかしそういうスケジュールの中でもローカルの学生や他の留学生が濃い内容のプレゼンを仕上げてきたりするのを何度も目の当たりにしたのでマラヤ大学のレベルの高さを思い知ることも多かったです。次セメスターも頑張ります。

多くの留学生の半年留学組なので一月前半はお別れラッシュでした。最後の晚餐と見送りをほぼ毎日繰り返しながらテストを終え、一月半ばかり一ヶ月の長期休みに入りました。自分はこの間シンガポール、カンボジア、ベトナム南部（ホーチミンとダラット）へ旅行に行きました。格安航空の飛行機で1~2時間ほどで他国に旅に行くことが出来るのは東南アジアのメリットと言えます。実際にそれぞれの国で訪問した場所や体験したことを書くと長くなるので割愛しますが、観光地や博物館を訪問し、街の風景を観たりする中で、授業の中で習ったことを実際に観る事が出来たので非常に良い経験となりました。道中他のバックパッカーや現地のローカルの人や駐在している人と話すのも楽しかったです。今のところASEANの中では半数の5ヶ国しか訪れていないので時間とお金が許す限りなんとか残りの5ヶ国も行ってみたいと思っています。ちなみに料理はカンボジアが一番美味しいと思います。貧困など負のイメージが強いカンボジアですが料理の美味しさや素晴らしい世界遺産や近代の悲しい歴史の学びが多くある場所なのでおすすめです。

(写真：アンコールワット、ホーチミンの街)



(写真：期末試験の様子、この後二倍に人の量が増えます)

